

# ろうさい病院つうしん

病院情報誌 平成18年度 第4号 平成19年1月1日発行

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

## “新年あけまして おめでとう御座居ます”

院長 堀田 饒



“光陰矢の如し”といいますが、当院の新病棟が稼動し始めて、早や1年が過ぎました。職員皆が、新しい病棟の機能に慣れるのに時間を要し、無我夢中の1年でした。

その間、御利用をいただいた病診連携の先生方、来院いただいた患者さんとその家族の方々に御迷惑をお掛けした1年であったとも言えます。幸い、入院される方々からは職員の対応も含めて、病院の機能に対して、高い評価をいただいております。組織の長として大変嬉しい限りです。これも病診連携の先生方の温かい御支援の賜物と職員一同感謝して居ります。

本年7月頃には、待望の新外来棟が稼動し始めます。新病棟と旧外来棟の往復を要した検査が一本化されることとなります。これ迄、患者さんとその家族の方々に多大な御迷惑をお掛けして参りましたが、円滑な診療体制が整うことになり、新生中部ろうさい病院の医療の真価が問われることとなります。器負けをしないよう、職員一同以前にも倍して“医療の質の向上”と“安全第一の診療”を肝に銘じて“良質な医療の提供”を心懸け、病診連携の先生方並びに来院される患者さんとその家族の方々の期待に応えられるよう努めたいと存じます。

翻って、医療界の現状に目を向ければ近年になく逆風で厳しいものです。そんな厳しい環境にあっても、当院の職員は来院される方々に明るく接し、“病める人の訴えに耳を傾け、心を癒す”ことを心懸けて、日夜診療に従事しています。

いたらない点が多々あるかと思いますが、今後とも温かい御支援、御指導をいただけますようお願いし、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶

副院長 小林 建仁



明けましておめでとうございます。新病棟が稼動して一年が経過しました。この間、当院の紹介患者数は660名/月、逆紹介患者数は510名/月といずれも前年の約10%増となっております。これもひとえに先生方のご協力の賜と深く感謝しています。

今年から紹介患者さん用の診察予約枠を新設し、地域医療連携室を通じてご予約が可能となります。是非ご利用ください。

本年もどうぞよろしく御指導いただけますようお願い申し上げます。

## 新年明けまして おめでとうございます

副院長 佐野 隆久



新年明けましておめでとうございます。旧年中は当院の診察、地域医療、病診連携など各種活動に多大なる後尽力いただき誠にありがとうございました。

当院は平成17年11月に病棟は新装し、皆様に御利用いただいておりますが、産婦人科、リハビリテーション科以外の外来部門は旧病院のまま診療を行い、いろいろ御迷惑をおかけいたしました。現在新病院の2期工事も順調に進んでおり、本年の7月には新外来棟が完成の予定です。完成後は全ての外来、検査、薬剤、看護、事務部門が集約いたしますので、今まで以上の医療行為を行い、皆様の御期待に十分お答えできるよう、職員一同活動いたしますので、よろしく願いいたします。

皆様のますますの御活躍、御健康を祈念いたします。

# PSAによる前立腺癌スクリーニングのお願い

泌尿器科部長 伊藤 裕一



これは米国でのお話です。奥さんが夫の40才の誕生日にPSA検診をプレゼントしたところ、5.5ng/mlということで、生検を行ないましたが陰性でした。その後1年ごとのフォローとなり、毎年不安を抱えて病院を訪れるようになりました。5年後に再生検が行われ、Gleason Score 2+3の悪性度の低い早期癌が見つかったのですが、すぐに治療は行わずPSAの上昇を待って治療を考慮するアクティブ・サーベランスがとられることとなりました。その後の治療がどうなったかは不明ですが、見つかった癌が彼にとってどういう意味をもつのか？わざわざ不安の種を持つことになったのではないかと興味深い話だと思いますが、米国でいかにPSAが一般的になっているかを物語っています。

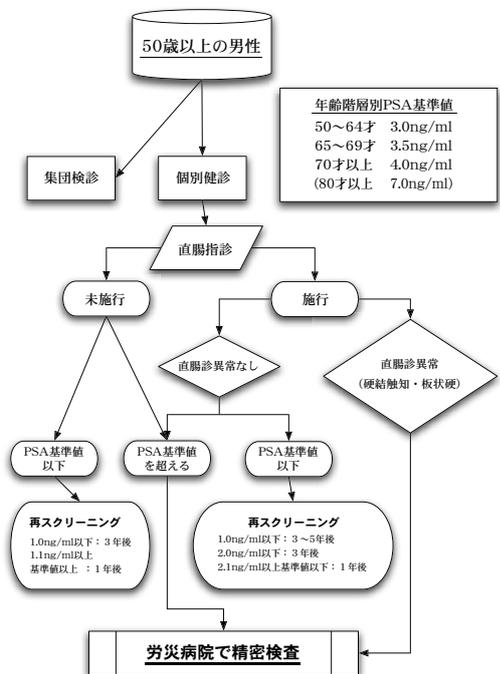
米国でPSAは1986年ごろから一般の臨床の場でも急速に普及しました。この結果1988年から1990年にかけて前立腺癌の罹患率は2倍となっており、PSAがどれほど有用な腫瘍マーカーであるかを表しています。

日本においてもPSAの臨床応用が始まって以来、前立腺癌の診断・治療は大きく変化しました。進行癌と早期癌の比率が逆転し、さらに近年の前立腺癌検診の普及に伴い、ますます多くの早期前立腺癌が見つかるようになってきています。現在我が国において、PSAと直腸診による前立腺癌スクリーニングは、一部の地域で集団検診として泌尿器科医が出向いて行われており、スクリーニングシステムとしては少数派です。しかし今後、前立腺癌の一次スクリーニングは基本健康診査時に地域の実地医家の先生方に行っていたいくべきであろうと思われます。そのさい泌尿器科以外の先生方にはやや抵抗があるかも知れませんが、PSA測定とともに直腸指診を行う方が増加していくことが、スクリーニングの方向性としては望ましいと思います。前立腺癌スクリーニングの流れをアルゴリズムとして図に示します。

PSA単独スクリーニングでは、精密検査が必要なPSAの基準値は4.0ng/mlとするのが一般的ですが、臨床的に重要な前立腺癌の腫瘍体積は、より若い年齢において小さく、高齢になるほど大きくなると考えられます。したがって年齢階層別のPSA基準値を設定することが今後は主流になると考えられます。当科で推奨する年齢階層別PSA基準値は50～64才3.0ng/ml、65～69才3.5ng/ml、70才以上4.0ng/mlと設定しています。ただし臨床的に意味のない癌（insignificant cancer）の発見を避けるために、80才以上の基準値を7.0ng/mlと別に設定する考えもあります。

最初の話に戻りますが、PSA検診により臨床的に意味のない癌を見つけてしまう危険性も指摘されています。しかし有効な一次予防のない現時点では、二次予防（早期発見、早期治療）が重要であることは間違いないことでしょう。そういう点もふまえて前立腺癌スクリーニングはやはり50才以上の男性に行うべきだろとうと思われます。ただ一親等以内に前立腺癌の家族歴を持つ方は、45才あるいは40才以上で行うことが望ましいようです。先生方のご理解とご協力を是非お願いします。

図 前立腺癌スクリーニングのながれ



## 泌尿器科医師予定表 ◎部長

	月曜日	火曜日	水曜日	金曜日	金曜日
泌尿器科	◎小谷 俊一	◎伊藤 裕一	◎小谷 俊一	◎伊藤 裕一	千田 基宏
特殊外来 (要電話予約)	性機能外来		性機能外来		

# 副鼻腔にもカビが生えます



耳鼻咽喉科医師 秋田 学

真菌による副鼻腔の感染症を副鼻腔真菌症あるいは真菌性副鼻腔炎といいますが、最近この副鼻腔真菌症の報告が増加傾向にあります。理由ははっきりとしていませんが、ステロイド剤の使用や抗生物質の多用に伴う菌交代現象などが指摘されています。また、CT等の画像診断の進歩や本疾患に対する認識の高まりもその一因と考えられています。当院では2年間の副鼻腔手術126例中10例（約8%）が副鼻腔真菌症と診断され、外来でも日常的に見られるようになりました。

この副鼻腔真菌症で問題となるのは、悪性腫瘍のように周囲組織に浸潤し眼球・脳を破壊する電撃型と呼ばれるtypeが存在することです。幸い当院では経験していませんが、進行が速く、抗真菌剤などの保存的治療では効果が少ないため現在のところ外科的に摘出するしか方法がありません。

非侵襲型真菌症の臨床的特徴としては、40～50歳代の女性にやや多く30歳以下には少ない傾向にあります。菌腫はアスペルギルスが圧倒的に多く、ムコール、カンジタがこれに続きます。症状は無症状から頭痛・鼻出血と多彩で、他科から紹介されることも少なくありません。

真菌症の診断は血液検査や培養では菌の検出がみられないことが多く、摘出組織を病理学的に同定する方法が一般的です。画像検査ではCT写真が有用で、通常一側単洞に石灰化を伴った陰影を認め、罹患洞の骨が肥厚しているのが特徴的です。



← 左上顎洞の真菌塊



→ 左蝶形骨洞の真菌塊

副鼻腔真菌症の治療は侵襲型も非侵襲型も抗真菌剤の効果が期待できず、外科的治療が必要となります。当院では真菌症が疑われた場合には、相談の上内視鏡下鼻内手術にて菌塊の摘出・洗浄をすすめています。

## 耳鼻咽喉科医師予定表 ●副院長

	月曜日	火曜日	水曜日	金曜日	金曜日
耳鼻咽喉科	向山 夏子 秋田, 吉田, 鈴木	●正木 道熹 秋田, 吉田, 鈴木	秋田 学 吉田, 向山	●正木 道熹 向山, 鈴木	吉田 忠雄 秋田 or 向山
特殊外来午後		中耳・甲状腺・頭頸部他	めまい・補聴器他	睡眠時無呼吸・鼻他	

# 連携室だより

## 紹介患者さんの診察予約は 地域医療連携室へ

現在、紹介状を持参された患者さんについては、他の患者さんよりも早く診察するなどの対応をしております。

さらに今年からは、紹介患者さんのための診察予約枠を新設しました。地域医療連携室を通じてリアルタイムでの診察予約が可能となりますので、是非ご利用ください。

### <依頼方法>

「診察依頼票」と「紹介状」をFAXしてください。なお、至急の場合はお電話にて仮予約を取られた後に上記のものをFAXしてください。

### <受診当日>

当日は、保険証と紹介状を持って、医事課へお越しください。

### <予約窓口>

地域医療連携室といたします。  
受付時間：平日8：15～19：30

### <注意事項>

- ・原則、指定医なしの予約を受け付けします。
- ・医師の指定をされる場合は従来通り各診療科に問い合わせて予約を取る為、平日8：15～17時の間にご連絡ください。なお、混み具合により予約が取れない場合があります。

## 経鼻内視鏡は いかがですか

鼻からおこなう内視鏡検査は、咽頭反射がほとんど無い為、患者さまには非常に満足していただいております。1日4人まで検査を受けていただけます。

### <予約窓口>

地域医療連携室といたします。  
受付時間：平日8：15～19：30  
※鼻の疾患（アレルギー性鼻炎、鼻出血、鼻づまり）の無い方を対象としております。

## 中部ろうさい病院病診連携セミナー 及び意見交換会のお知らせ

先日葉書にてお知らせ致しましたが、今年度の病診連携セミナー及び意見交換会を下記のとおり開催する予定です。

今回は最新機器である64列マルチスライスCTを演題としております。多くの方のご参加をお待ちしております。

### <開催日時>

平成19年2月3日（土）

- 1 病診連携セミナー（17：30～）  
演者：真下 伸一（当院放射線科部長）  
天野 哲也（当院冠動脈疾患部長）  
演題：64列マルチスライスCTについて
- 2 意見交換会（18：30～）  
立食形式にて行います

### <開催場所>

名古屋ガーデンパレス  
名古屋市中区錦3丁目11番13号  
TEL：052-957-1022

※ご出席される方で返信葉書をまだお出しになられていない方は、お手数ですが地域医療連携室までご連絡ください。

## 医師交代

辞職（平成18年12月31日）

- 森下 真次（神経内科部長）  
藤田 芳郎（腎臓内科部長）  
森脇 菜採子（外科医師）

採用（平成19年1月1日）

- 石川 玲（外科副部長）  
梅村 敏隆（脳卒中内科部長）

☎地域医療連携室（平日8：15～19：30）  
052-652-5950（TEL）  
052-652-5716（FAX）

室長：小林 建仁（副院長）  
佐野 隆久（副院長）  
事務担当：河野奈々・金井久実